

科目	ベンチャービジネス論	担当	盧 聡明	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

この講義ではベンチャー企業とは何かをはじめ、いくつかの優れたベンチャー企業の事例を解説しながら、最終的に皆さんの起業活動や就職活動に役立ちたいと考えている。ただし、グローバルとIT時代に突入してからベンチャービジネスを取巻く環境も大きく変わった。この授業の中で、ベンチャービジネスの実態、特徴、課題、支援状況、海外の動向などについて体系的に学ぶことができる他、前述の環境変化に留意しつつ、アジア諸国(主に韓国、台湾、中国)のベンチャー企業との比較をしながら、日本のベンチャービジネスの特徴を考察し、理解を深めてもらいたい。そして、日本を含めた世界の起業家の創業精神も学び、時代に合うような起業構想に気づき、ベンチャー企業を見る目を養うことを到達目標とする。

【履修注意】

受講者は事前に(財)ベンチャーエンタープライズセンター(VEC)のDREAM GATE(www.dreamgate.gr.jp)で会員登録をし、起業・支援、参考事例の関連情報を入手すること。また、普段は新聞や専門雑誌等で企業の動き、経営・経済動向、政府による企業への政策支援に関する報道などによく留意し、常に最新の情報を入手するように心掛けること。講義内容に関連する専門用語の単語集を用意するので、予習や復習のために使ってもらいたい。また、授業中は極力ノートを取る。デジタル資料とレポート課題は大学のWBTとレポートシステムを利用して提供する。講義内容に応じて、パソコンなどから小レポートの提出を求められることがある。授業中の講義内容と関係ないパソコンの使用や携帯電話、私語、飲食は禁止。理解度を高めるために、記入用の講義ノートも適宜配布する。

【評価方法】

出欠表の署名照会などを行うことがあります。代理署名・出席を発見した場合、すべての出席を無効にする。評価方法は定期試験での評価を中心に(60%)、期間中の小レポートの得点、出席や講義議論の参加、ノート作成状況等も勘案して(40%)総合的に評価する。

【試験について】

筆記試験を実施する予定。再試験対象者の条件:40点以上且つ出席率は3分の2以上であること。

【予習・復習】

予め発表した各テーマ項目に応じて、参考文献の関連項目を予習しておくこと(週90分以上)。また、各回に配布するパワーポイント教材と書込み用の講義ノート、単語集を中心に復習すること。

【教科書】

購入教科書なし。power point などのデジタル教材を用いて講義する。

【参考書】

書籍名:『ベンチャー企業論』 著者:柳孝一・藤川彰一著 出版社:放送大学 など

【その他の注意事項】

講義内容や期末試験に付き、受講者数によって変更する場合がある。レポートシステムによる課題の提出などがあり、事前に提出方法などを習得しておくこと。

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	ベンチャービジネスの基本的な理解①	オリエンテーション、ドリームゲート、ミニアンケート
2	ベンチャービジネスの基本的な理解②	定義、経営者の実像、新規性・ニュービジネスとは
3	ベンチャービジネスの基本的な理解③	ベンチャー企業とは、ベンチャー企業の実例
4	歴史と沿革～中小企業との比較により～	日米創業支援の流れ、中小企業との相違点、白書
5	現況①～中小企業白書より～	中小企業白書のポイントとまとめ、起業家の声
6	現況②～開廃業の実態と国際比較～	開廃業率算出方法と実態、国際比較、起業の担い手
7	近年の起業話題Ⅰ	起業大作戦、ダブルキャリア、ハイブリッド起業
8	近年の起業話題Ⅱ	日米起業家の違い、資金調達とニーズ
9	副業について	グループディスカッションとディベート
10	起業家について	ベンチャー企業の分類、アントレプレナー、起業診断
11	ベンチャー企業の支援インフラ	取り巻く環境、主な公的支援、インキュベーター
12	ベンチャーキャピタルの投資実態	VCの定義、資金調達、投資ステップと判断ポイント
13	事業・商品アイデアの演習	社内ベンチャー、起業動機、起業コンテスト、夢の商品
14	創業計画書の作成と発表	独創企業研究、創業計画書、相互評価と人気投票。人数によって変更する場合があるが、発表は一人10～15分程度を予定している。ppt.ファイルは評価の対象物であるため、事前に用意し、提出すること。
15	シリコンバレーとアジアのハイテクパーク	JTPAとbtrax、シリコンバレー、新竹科学園区
16	期末試験	起業演習、事業計画書の作成と発表